

土地利用型野菜の生産安定技術

本県の土地利用型野菜については、淡路地域を中心にタマネギ、レタス、キャベツなどが栽培されている。これらの品目で収益を上げブランド力を高めるには、多収、高品質化とともに、大面積の農地を低コストかつ省力的に活用する機械化体系の確立が望まれる。また、安定した価格で取引

される加工・業務用野菜については、長期間の安定供給体制が必要となる。ここでは、これら土地利用型野菜の生産安定の取り組みについて紹介する。

真野 隆司 (淡路 農業部)

(問い合わせ先 電話：0799-42-4880)

タマネギ収穫体系別に見た経費の比較

タマネギの収穫体系は、従来の吊り小屋体系から鉄コンピッカー体系への移行により、10a当たり労働時間は114時間から14時間に減少できる。70a以上栽培すれば、吊り小屋体系より鉄コンピッカー体系の方が経費は安くなる。

内容

手作業の吊り小屋体系から機械作業体系までの各種の体系について、収穫から乾燥までの労働時間や経費を試算した。

吊り小屋体系は、労働時間114時間、労働賃金としての変動費が139,000円であったが、20kgポリコンピッカー体系では、労働時間78時間、変動費85,000円、固定費282,500円。鉄コンテナ利用の歩行型ピッカー体系では労働時間14時間、請負料金を含めた変動費が68,830円、固定費が516,500円となった(表)。

栽培面積ごとの経費は吊り小屋体系に比べ、20kgポリコンピッカー体系や鉄コン歩行型ピッカー体系では70~80a以上の栽培面積で経費が安

くなった。乗用ピッカーを導入する場合は、130a以上の面積で経費が安く、全作業を委託する請負作業では、吊り小屋に比べて経費は安くなかった(図)。

普及上の注意事項

圃場の面積、形状等によって機械利用は制限されるため、導入に当たっては、作業を総合的に検討する必要がある。

竹川 昌宏 (淡路 農業部)

(問い合わせ先 電話：0799-42-4880)

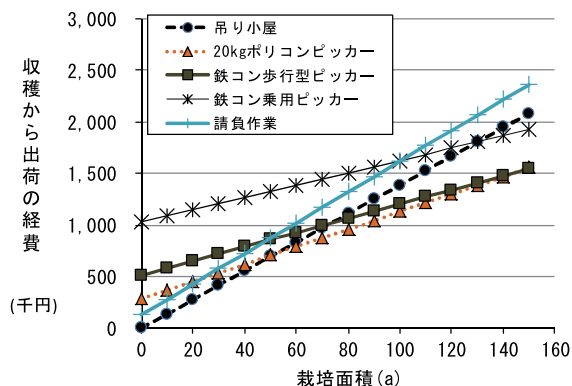


図 作業体系別の栽培面積と収穫から出荷の経費の比較

表 作業体系別のタマネギ収穫から出荷までの労働時間と経費 (10a 当たり)

作業体系 ²	労働時間 (時間/10a)	労働賃金 ³ (円/10a)	電気代 ⁴ (円/10a)	請負料 (円/10a)	変動費計 (円/10a)	固定費 ⁵ (円)
吊り小屋	114	139,000	0	0	139,000	0
20kgポリコンピッカー	78	85,000	0	0	85,000	282,500
鉄コン歩行型ピッカー	14	20,750	2,000	46,080	68,830	516,500
鉄コン乗用ピッカー	8	11,750	2,000	46,080	59,830	1,026,500
請負作業	3	4,500	0	144,530	149,030	130,000

²作業体系は以下のとおりとした

吊り小屋: 全て手作業

20kgポリコンピッカー: 掘り取り機とピッカーを使用ハウス乾燥、

鉄コン歩行型ピッカー: 掘り取り機と歩行型ピッカー使用、自家乾燥後出荷

鉄コン乗用型ピッカー: 掘り取り機と乗用型ピッカー使用、自家乾燥後出荷

請負作業: 掘り取り機で掘り取った後、全ての作業を委託

³労働賃金: 選別出荷1,000円/hr, それ以外1,500円/hrとした

⁴電気代: 簡易型差圧通風乾燥を行う場合、^{*}根葉切り等料金

⁵固定費: 機械類の耐用年数10年として1年分の数値とした